

其六、攻撃第十七日（十月二十八日）晴

師團ハ二十日朝來前日ニ引續キ攻撃ヲ續行ス而シテ此日朝ニ於ケル
飛行機偵察（附圖第三十）ニ依リハ馬陸鎮南翔以西万泰鎮ニ至ル
間敵ノ移動ヲ見ス又師團當面ニ於テモ廣福馬陸鎮道上ニ小數ノ
敵兵移動シアルノ外特ニ敵部隊ノ移動ヲ認メサル狀況ニ在リ
一、右翼隊方面ノ戦闘經過

新右翼隊タル歩兵第五十八聯隊第一大隊ハ此日午前八時迄ニ四石翼
隊ト其守備ヲ交代シ主カヲ以テ新水橋各一部ヲ以テ南梅宅戴家
宅ノ線ヲ守備ス而シテ師團豫備隊タルヘキ歩兵第五十八聯隊
長ノ指揮スル四聯隊本部及第二大隊ハ正午過キ王家橋ニ集結

ス右翼隊當面ノ敵情ハ大ナル變化ナク敵ハ依然廣福西端ノ線
ニ工事増強中ナリ

ニ中央隊方面ノ戰鬥經過

中央隊ハ此日朝前日ニ引續キ攻撃ヲ續行ス

の去ル二十三日三家村附近ノ掃蕩ヲ終リ爾後蔡家宅附近ニ在リテ

師團豫備隊タリシ歩兵第百四聯隊主力ハ此日朝中央隊右

第一線トシテ再ヒ思出深キ戰場ニ出テ歩兵第百四聯隊長ハ

其第一大隊ヲシテ陸家橋附近ニ進出シヤリシ歩兵第六十五

聯隊第一大隊ト交代セシム當時陸家橋附近ニハ尚ホ殘敵ア

リシヲ以テ歩兵第百四聯隊ハ之ヲ掃蕩スルト共ニ揚經クリーン

177

ノ渡河ヲ準備ス

(2) 中央隊長ハ馬家宅方面ニ於ケル揚溼クリークニ渡河決行ノ爲
 ヲ飛行隊並砲兵隊ト協定シ午後二時ヨリ約一時間飛行機
 ニ依ル爆撃ヲ午後二時三十分ヨリ約一時間砲兵ノ射撃ヲ實
 施シ午後三時三十分ヲ期シ渡河突撃ヲ敢行スル如ク豫定
 ス當時歩兵第六十五聯隊ノ第一線部隊ハ何レモ糧食飲用
 水盡キ不眠不休戦闘ニ從事シ將兵ハ疲勞其極ニ達シアリシ
 モ其志氣極メテ旺盛ナリ

同聯隊ハ陸家橋附近ニ於テ歩兵第百四聯隊ノ部隊ト交代
 シタル第一大隊ヲ右第一線トシ陸家橋南側地區ノ敵陣地ヲ

奪取シ馬家宅北方地區ニ於テ楊涇クリークヲ渡河シ得ル如ク準備
セシメ又第三大隊ヲ第一線トシ楊涇クリークノ渡河ヲ準備セシ
ムルト共ニ一部ヲ以テ馬家宅ニ向ヒ突撃ヲ準備セシム斯クテ午後
三時三十分第一線部隊ハ空爆山砲及重砲ノ協カヲ得テ突撃
ヲ決行ス

(3) 午後四時二十五分歩兵第百三旅團司令部ヨリ左記要旨ノ報
告アリ

報告ノ要旨

砲兵觀測所ヨリ見タルトコロニ依レハ後方部隊ハ逐次第一線ニ
加入シ彼我両軍ハ楊涇クリークヲ隔テ、銃砲火ヲ交ヘ激戦

中ナリ

(4) 師團ニ於テハ前記報告ヲ受領シ切ニ其ノ成功ヲ期待セリ然ルニ我
第一線部隊一度突撃ニ移ルヤ前日同様附圖第三十一ノ如クグリ
ーニ對岸斜面ニ於ケル敵機關銃、グリーク東岸地區ニ殘存セ
ル敵ヨリ受クル背射並此等ニ對スル我カ砲兵ノ制壓ノ困難及
グリーク對岸ヨリスル敵手榴彈ノ飛來等猛烈ヲ極ム然レト
モ第一線部隊ハ毫モ之ヲ顧ミルコトナク死傷者ヲ踏ミ越エテ一
齊ニグリーク線ニ進出ス然レトモ敵彈ノ集中益々甚ク
シク我カ工兵ノ架橋モ空シク徒ラニ死傷者續出シ遂ニ渡河
突撃ヲ實施スル能ハス第一線部隊ハグリーク堤防ニ膚接シテ

停止スルノ已ムナキニ至ル此日ニ於ケル歩兵第六十五聯隊ノ損傷甚タシ

(14) 老陸宅方面ニ在リテハ歩兵第百四聯隊第四中隊ハ歩兵第六十五聯隊第二大隊ト交代シ旅團左翼ノ守備ニ任ス

三 左翼隊方面ノ戦闘經過

(11) 昨二十七日第一線聯隊右大隊タル第二大隊ハ日没ト共ニ攻撃作業ヲ以テ新陸宅ノ敵ニ近迫シ敵前約五十米ニ達シ新陸宅東方突角敵陣地要點ノ奪取ニ努メタルモ敵重火器ノ猛射ニ遭ヒ成功スルニ至ラスシテ天明トナル

(12) 此日朝來左翼隊ハ攻撃ヲ續行ス而シテ午前九時三十分砲兵ノ

支援射撃終了ト共ニ新陸宅ニ對シ突入ノ豫定ナリシモ新
 陸宅東側地區ニ於ケル敵重火器ノ制壓ノ為メ一時第一線歩
 兵ヲ後退セシメテ砲兵ノ射撃ヲ實施セシムル等ノ為メ遂ニ
 突入時機ヲ一時延期セリ而シテ午前十一時三十分十二榴ヲ以テ
 スル突撃支援射撃ト共ニ我カ第一線ハ新陸宅ニ對シ突撃前
 進ヲ敢行ス今時十二榴ハ花家橋宅西方地區ニ二十四榴ハ金家
 宅東方無名部落^{ハ文山砲台清水嶺西南方無名部落}ノ敵重火器ニ對シ目標ヲ變換シ突撃ヲ
 援助ス

(3) 午後零時三十分敵ハ續々新陸宅ニ増加シ新陸宅東端ノ重
 火器ハ我カ突撃部隊ニ對シ更ニ猛烈ナル射撃ヲ雨注シ前

99Li

四二十九日ノ爲ノ部署

業ヲ進メツ、夜ニ入ル

進困難トナリシモ一進一止敵ニ近迫中右第一線タル第二大隊長矢崎
大尉壯烈ナル戦死ヲ遂ケタルヲ始メトシ死傷續出シ前進愈々
困難トナリシヲ以テ左翼隊長ハ十五榴ヲ以テ新陸宅ノ敵ニ對シ
制壓ニ努メシメ且第一線部隊ノ戦線ヲ整理スルノ必要ヲ
認め敵前五六十米ノ線ニ攻撃陣地ヲ構成セシメツ、夜ニ入ル
歩兵第五十八聯隊第三大隊(中隊小隊欠)ハ第一百十六聯隊ノ攻
撃ニ方リ花家橋宅東側敵陣地中ノ銃眼六箇ヲ機関銃ヲ以テ制
壓シテ其ノ戦鬪ニ協カスルト共ニ當面ノ敵陣地ニ對シ近迫作

(1) 師團ノ部署

二十八日師團ハ朝來攻撃ヲ續行シ一意楊涇クリク、突破ニ努メタルモ各方面共ニ所期ノ成果ヲ収メ得ス軍主力方面ニ於テハ三十七日朝來其、追撃頓ニ進振シ各兵團ハ敵ヲ掃蕩シツ、本夕刻迄ニハ各其ノ第一線ヲ以テ概テ蘇州河ノ線ニ進出セリ而シテ軍當面ノ敵ハ三十七日朝來南翔江橋鎮ノ陣地ヲ增強中ニシテ師團當面ノ敵後方ニ於テハ本日正午頃嘉定南翔道ニ上テ越エテ西方ニ退却スル部隊アリ、即チ師團ハ軍全般ノ狀況ト師團當面ノ敵情ニ鑑ミ速ニ當面ノ敵全主陣地帶ヲ突破シ楊涇クリクヲ渡河シ軍

所命ノ線ニ進出スルノ緊要ナルヲ認メ明二十九日依然攻撃
ヲ續行センカ爲メ午後六時命令(別紙第四十三師作
命甲第四十入號)ヲ下達シ概ネ左ノ如ク部署ス

一 右翼隊ヲシテ依然前任務ヲ續行セシム

二 中央隊ヲシテ二十九日午後三時ヲ期シ渡河ヲ決行セシム

三 左翼隊ヲシテ二十九日爆撃砲撃ヲ引續キ午後一時新陸宅

ニ對シ突撃ヲ決行セシム砲兵隊ノ主力及重爆撃機ヲ以テ新

陸宅ニ對シ攻撃シ其ノ戦闘ニ協力セシム

四 砲兵隊ヲシテ二十四榴及十二榴各一中隊ヲ以テ左翼隊ノ攻撃

ニ協力セシムト共ニ爾餘ノ砲兵ヲ以テ中央隊ニ協力セシム

(四) 中央隊ノ部署

中央隊長ハ前項師團命令ニ基キ明二十九日依然渡河攻撃ヲ強行セントシ午後十一時概テ左ノ如ク部署ス

一、右第一線聯隊ヲシテ速ニ陽澄タリーク東岸殘敵ヲ掃蕩シ陸家橋方面ヨリ渡河ノ決行ニ努メシム特ニ右第一線聯隊ノ渡河ニ協力セシム

二、右第一線聯隊ヲシテ遅クモ明二十九日正午迄ニタリーク東岸ノ殘敵ヲ掃蕩シテ渡河諸準備ヲ完了シ主力ヲ以テ馬家宅方面ヨリ午後三時ヲ期シ渡河突撃ヲ決行セシム

砲兵隊ヲシテ午前中第一線兩聯隊ノ殘敵掃蕩ニ又午
 後全カヲ以テ左第一線ノ渡河攻撃ニ協力セシム
 歩兵第百四聯隊第四中隊ヲシテ老陸宅ヲ固守スルト
 共ニ左第一線聯隊ノ攻撃ニ火力ヲ以テ協力セシム
 新ニ歩兵第六十五聯隊第八中隊（小隊欠）歩兵第百四
 聯隊第三大隊（第九第十中隊欠）ヲ豫備隊トシテ槽網
 灣ニ位置セシム

左翼隊ノ部署

左翼隊長ハ師團命令ニ基キ明二十九日攻撃ヲ續行シ新
 陸宅ノ敵陣地ヲ攻略センカ爲午後十一時三十分概ネ左ノ

如ク部署ス

1. 歩兵第百十六聯隊(山砲兵第一天隊ヲ配屬ス)ヲシテ一部ヲ以テ明二十九日午後一時ヲ期シ新陸宅ノ敵陣地ヲ攻略セシム

2. 歩兵第五十八聯隊第三大隊(第十一中隊ノ下隊第十二中隊欠)ヲシテ前任務ヲ續行セシム

3. 豫備隊タル第十二中隊ヲシテ依然現在地ニ在ラシム

尚ホ左翼隊長ハ二十九日ノ攻撃ノ爲メ師團砲兵隊ニ對シ午前十時ヨリ射撃ヲ開始シ新陸宅小宅等ニ對シ敵重火器ノ破壊並集中射撃等ヲ實施スル如ク所要ノ協定ヲ

爲ス

五、二十八日夕ニ於ケル師團ノ態勢

二十日夕ニ於ケル師團ノ態勢附圖第三十二ノ如シ

六、敵情並敵ニ興ヘタル損害等

去ル二十二日ヨリ本二十八日夕迄ニ於ケル戦闘ノ結果判明セル敵ノ

團隊号、動靜、敵ニ興ヘタル損害等概ネ尤ノ如シ

カ、我ト交戦セシ敵ノ團隊号

師團當面ニ於ケル敵兵團ハ從來第十三、第九十八、第百

六十ノ各師ナリシモ軍ヨリハ通報ニ依レハ以上ノ外廣西軍

第八軍(第百七十、第百七十一、第百七十二ノ各師)及第四

十八軍(第百七十三、第百七十四、第百七十五ノ各師)ハ李品仙
指揮ノ下ニ第二十一集團軍トナリ第十一、第九師團ノ正
面ト共ニ我師團正面ニモ現出シアルコト確實ナリ
敵ノ動靜及敵陣地

我軍主力ハ既ニ蘇州河河畔ニ進出シ又空中偵察ノ結
果ニ依リハ敵ハ南翔馬陸鎮及嘉定附近ヨリ西方ニ向ヒ
退却シツ、アルカ如ク師團ハ銳意第二線部隊ヲシテ敵
退却ノ徵候ニ関シ偵察ニ努メシメアルモ師團正面ニ於テハ
敵陣地相互間ニ於ケル部隊ノ移動ハ之ヲ認ムト雖モ何等退
却ノ徵ナキノミナラス廣福其他ニ於テモ敵ハ益々陣地増強中ナリ

之レ敵ハ南方蘇州河方面ニ於テハ退却シアリト雖モ師團當面
ノ敵ハ軍主カノ南方ニ向フ追撃ニ方リ絶エス其ノ側面ニ突出セ
ントスルノ態勢ヲ示スト共ニ北方或ハ西方ニ向フ退却ヲ收容シ
アルモノト觀察シ得ルトコロナリ

新木橋、廣福、老陸宅附近敵陣地、編成並強度ニ関シテハ
既述ノ如ク右ノ中、左各翼隊正面共ニ其陣地ハ堅固ニシテ
多數ノ掩蓋機関銃座ヲ有シ此等掩蓋ハ十五榴級以上ノ砲
彈ニ依ルニ非レハ破壊困難ナリ又機関銃ハ少クモ毎十米ニ
一個ヲ有シ其他迫撃砲多數アルモ其ノ陣地、發見ハ極メテ困
難ナリ

(3) 敵ニ與ハタル死傷

二十日以來ノ戦闘ニ於テ敵ニ與ハタル損傷ハ明瞭ナルモノ
 ミニテモ新木橋方面ニ於テ敵ノ遺棄セシ死体及我部隊ノ
 掃蕩ニ於テ刺殺セシモノ少クモ六〇、三家村方面ニ於テ少ク
 モ四百五十ニシテ其他老陸宅、孟家宅、清水顧方面ノモノ
 ヲ合セ考察セハ敵ノ死傷合計五六千ト判断シ得ヘク敵
 ノ戦力ニ大ナル打撃ヲ與ヘ得タルモノト觀察ス

(4) 鹵獲品

新木橋附近ノ戦闘ニ於テ歩兵第五十八聯隊ハ〇七五式輕機
 六、彈藥四〇〇、其他書類地圖等ヲ鹵獲セリ

計合		傷負		死戦		別區 階 級 曆 日
以下 士 下官	將 校	以下 士 下官	將 校	以下 士 下官	將 校	
271	4	258	4	13		23
300	3	271	3	29		24
257	4	262	4	5		25
275	8	230	7	45	1	26
193		136		57		27
168		154		14		28
2442	152	1965	96	457	56	累計

(1) 人、損傷

左ノ如シ

我方損傷ノ概數
去ル二十三日ヨリ二十八日迄ニ於ケル師團ノ人馬損傷ノ概數

(2)

馬ノ損傷

累計	計	其他	戦傷	戦死	區分/日
351	56		4	22	23
357	8	6		2	24
395	28	28			25
404	9	2		1	26
633	299	299			27
651	21	15		6	28

其七 攻撃第十八日(十月二十九日) 晴後雨

師團ハ二十九日朝來依然攻撃ヲ續行ス

此日午前八時四十分並九時三十分ニ於ケル我カ飛行機ノ空中
偵察ノ結果ニ依リハ師團當面ノ敵情ハ概ネ左ノ如シ

1 嘉定、南翔道方面ハ敵徒歩兵相當多數南北ニ移動シヤ
 リ又馬陸鎮ヨリ万泰鎮ニ至ル道路ハ往來頻繁ナリ
 2 廣福馬陸鎮並該道路以南ノ道路方面ニ於テハ敵兵
 ノ移動ヲ見ス
 3 敵陣地附近ニ於テハ敵兵ノ移動スルモノナク戰場概シテ
 静寂ナリ
 又各クリーク上ノ橋梁ハ破壊セラレアラス悉ク現存シヤ
 以上偵察ノ結果ニヨリ師團當面ノ敵ハ其ノ後方地區ニア
 ル部隊ハ逐次退却シツ、アルモ敵陣地ヲ守備セル部隊ハ
 今尚ホ何等動搖ノ色ナキコト明瞭ニシテ特ニクリーク

上ノ橋梁破壊セラレアラサルニ於テ然リ

ニ 右翼隊方面ノ戦闘經過

右翼隊ハ依然南梅宅新木橋戴家宅各西端ノ線ニ在リ
テ廣福及其以南ノ敵ト相對ス

此日敵ハ吳家宅(南梅宅西方約一料)附近ニ新ニ陣地構築
シツアリ即チ右翼隊ハ配屬砲兵タル山砲兵第九中隊ヲ
シテ午後八時頃ヨリ約一時間射撃ヲ實施シ其工事ヲ妨
害セシム

三 中央隊方面ノ戦闘經過

中央隊ハ此日朝來近ク楊涇カトリトク東岸ノ線ニ在リ

テ渡河ヲ準備ス

(10) 陸家橋方面ニ在ル右第一線タル歩兵第百四聯隊ハ午

前九時三十分陸家橋附近楊涇クリーク東岸ノ敵ニ對シ
掃蕩ヲ開始シ夕刻迄ニ概ネ陸家橋附近ノ殘敵ヲ掃蕩

シ近ク楊涇クリークノ線ニ進出ス

(11) 中央隊左第一線タル歩兵第六十五聯隊ハ前夜來一部

ノ敵ヲ驅逐シクリークノ線ニ進出シ渡河ヲ準備ス此日

第二第三大隊ハ第一線部隊トシテ何レモ全滅ヲ睹シ

テ楊涇クリークノ渡河ヲ決意シ總テ壕内ニ遺留品ヲ

集積シ互ニ訣別ヲ行フ而シテ各大隊共ニ其兵力既ニ百

數十名ヲ出サル状態ナリ午後三時當面ノ敵陣地ニ對
 シ猛烈ナル空爆・重野山砲ノ集中射撃ヲ實施セラル、ヤ
 第一線部隊ハ其ノ効果ノ偉大ナルヲ認メ渡河ノ必成ヲ
 期セリ斯クテ午後三時三十分第二大隊及聯隊重火器ノ
 掩護射撃ノ下ニ我々砲彈ニ膚接シテ第三・第三大
 一齊ニ渡河突撃ヲ開始ス工兵ハ渡河材料ヲ第一線ニ運
 搬シ砲兵ノ射程延伸ト共ニ歩兵ノ突撃ニ移ルト同時ニ
 其ノ作業班ハ絶竹ヲ架シグリークレニ跳込マントスヤ沈黙シア
 リシ敵ノ自動火器就中グリーク水面ヲ斜射縱射スヘキ
 敵機関銃ハ倏然火ヲ吹キ且迫撃砲ノ有効ナル射撃ハ

我々突撃部隊ヲ猛射ス、第三大隊ノ如キハ重輕機關銃並
 擲彈筒ヲ以テ射撃ヲ爲サントスルモ全銃殘ラズ故障又
 ハ破壊セラレ射撃不可能ニシテ全員切齒突撃ヲ敢行セン
 トスルモ前進スル能ハス、然レトモ第一線部隊ハ敢テ之
 ヲ意トセス決死突撃ヲ返覆セシモグリーク水面ハ敵銃火
 ノ障壁ニ閉サレ死傷續出ス歩兵第六十五聯隊副官
 小島少佐ノ如キ第一線ニ挺身シ渡河突撃ノ指導ニ任
 セシモ遂ニ名譽ノ戰死ヲ爲スニ至レル等第一線部隊ハ
 精魂ノ限リヲ盡シ勇戰奮闘セシモ遂ニ成功ヲ見ズクリ
 ークレノ線ニ接シテ日没トナル、二十八日ヨリ二十九日ニ至ル歩兵第六

十五聯隊ノ攻惠態勢附圖第三十三、如シ、

(4)此夜中央隊長山田少將ヨリ師團長宛左記、如キ悲
壯ナル報告アリ、

報告

ノ十月三十一日以來九日此間渡河決行^{ヲ企圖}スルコト四回
多大ノ犠牲ト鉄^目量^トヲ拂ヒ特ニ本二十九日午後三時
三十分ヲ期シ第一線悉ク悲壯ナル一大決意ノ下
ニ馬家宅ノ占領ヲ企圖セシモ一部前岸ニ達シタル
モノ河中ニ入リシモノ突撃發起線ニ立ちシモノ悉
クヲ失ヒ遂ニ成功ヲ見ル能ハズシテ千歳ノ恨ヲ遺

セリ、

2. 本戦闘ハ矢取ハ逆ニ、戦闘ニ依ル突撃力ノ鈍磨
 突撃スベキ敵陣地健在シ火力組織濃密ナルコト並最
 干潮時ニ於テ尚ホ首途ノ「クリーク」ヲ渡河セザルベカラ
 ザルコトニアリシト認ム、

3. 中央隊ハ師團命令ニ基キ長恨ノ馬家宅攻撃ヲ中
 止シ戦線ノ整理ヲナスト共ニ陸家橋方面ヨリノ渡河
 ヲ準備シ且東岸一帯ノ残敵ノ完全ナル掃蕩ヲサシ
 トス、

4. 本日ノ戦闘ニ於テ第一大隊長山口少佐負傷シ小

189

畠聯隊副官戰死ス

四、左翼隊方面ノ戰況

(1) 左翼隊第一線諸隊ハ二十八日夜依然攻撃陣地ノ補強ニ努ム、夜ヲ徹ス

(2) 二十九日朝來第一線部隊ハ銳意攻撃陣地ノ推進ニ努ム、斯クテ友軍飛行隊ハ正午過ヨリ爆撃ヲ敢行スルト共ニ砲兵ハ敵陣地ニ對シ集中射撃並制壓射撃ヲ交互ニ反覆實施ス、此間突惠部隊ハ歩ミ前進ヲ續行シ午後一時最後ノ突撃支援射撃ノ完了ト共ニ突撃前進ヲ開始ス

即チ砲撃止ムヤ歩兵第百十六聯隊右第一線タル第二大隊ニ於テハ決死隊長小林少尉ハ一隊敢然新陸宅東端敵陣地ニ突入ス。當時新陸宅ハ火災ヲ起シ亦該村落中央ニ敵部隊集結中ナリシヲ以テ左翼隊長ハ砲兵ニ對シテヲ射撃セシム。

午後四時五十分歩兵第百十六旅團司令部ヨリ、
決死隊ハ新陸宅北方ヨリ突入シ部落中央ニ格闘中ナリトノ報告アリ。

(3) 是ニ於テ歩兵第百十六聯隊長ハ第一第三大隊ヲシテ清水顧西方地區ヨリ新陸宅南側ニ沿ヒ其西端ニ進出セシムベク

1/50

命ジタルモ該方面ニ対スル我カ砲、爆撃ノ效果意外ニ少ク
 爲、此等大隊ハ突撃前進ニ移リタルモ敵前至近ニ距
 離ニ於テ攻撃頓挫シ遂ニ敵陣地ニ突入スルニ至ラズ之カ爲
 左翼隊長ハ午後五時歩兵第百十六聯隊長ニ対シ第
 一第三大隊ヲシテ薄暮ヲ利用シ敵陣地ニ突入シ新陸宅
 西端ヲ奪取セシムルト共ニ新陸宅東端ニ突入セシ我カ決
 死隊ヲシテ極力其ハ位置ヲ確保セシムベキヲ命ズ、
 然レドモ新陸宅東端ニハ堅固ナル掩蓋機関銃座アリ而
 シテ其ノ陣地ハ極メテ巧妙ニ遮蔽セラレ老陸宅西南端敵
 機関銃ヨリ北射ヲ受ケタルノミナラズ第一線部隊亦隊

五. 三十日ノ爲ノ部署

(1) 師團ノ部署

三十日朝來師團ハ各方面共ニ決死攻撃ヲ斷行シタル
モ中央隊方面ニ於テハ遂ニ楊涇「クリーク」ヲ超越シ得ズ

191

伍ノ整頓ヲ要スベキモノアリ之カ爲第一第三大隊ノ攻撃手
ハ何等進展ヲ見ズ新陸宅東端ニ突入セシ第二大隊ノ
決死隊亦新陸宅敵陣地ノ鉄條網前ニ於テ大部分
損傷ヲ受ケ惜シムベシ之亦不成功ニ終ル

斯ノテ遂ニ左翼隊ハ未ダ新陸宅ヲ奪取スルニ至ラズシテ
夜ニ入ル

且左翼隊方面ニ於テモ新陸宅ノ敵亦依然頑強ナル抵抗
 ヲ持續ス而シテ師團當面ニ於ケル敵ノ動靜ハ空中偵
 察ノ結果何等動搖ノ徴ノ認ムベキモノナシ然レドモ此日
 軍主力ハ既ニ蘇洲河ノ線ニ達シ渡河攻撃ノ準備中ニ
 シテ第十一師團亦王塘橋郭家宅斗門橋ノ線ニ達シ
 東南方ヨリ南翔鎮ニ向ヒ攻撃中ナルヲ知リ師團ハ軍全般
 ノ作戰ニ策心センガタメ速ニ當面ノ敵ヲ擊破シ南翔嘉
 定中間地區ニ突出センガタメ師團左翼方面ヨリ戰果ヲ
 進展セシメシコトヲ企圖セリ然レドモ我が第一線諸隊ハ既ニ
 連日連夜真ニ決死的攻撃ヲ敢行シ爲ニ爾後ニ於ケ

部署セリ

ル果敢ナル攻撃ノ爲ニハ隊伍ヲ整理シシテ戦力ヲ恢
復セシムルヲ必要トセリ、茲ニ於テ師團ハ明三十日現態勢
ヲ以テ爾後ノ作戰ヲ準備スルニ決シ午後六時命令(別紙第
四十五、十三^(師)、^(命)甲第^(四十九號))ヲ下達シ概ネ左ノ如ク

- (1) 第一線諸隊ヲシテ現在線ヲ確保シ爾後ノ攻撃ヲ準備セム
- (2) 中央隊長ヲシテ歩兵第六十五聯隊(第一大隊欠)ヲ明三十
日正午迄ニ王家橋附近ニ集結シテ師團直轄タラシムル
ト共ニ工兵第二中隊(二小隊欠)ヲ原所屬ニ復歸セシメ新
ニ豫備隊タル歩兵第百四聯隊第二大隊ヲ其指揮ニ復歸

192

セシム、

(3) 左翼隊長ヲシテ歩兵第百十六聯隊ノ一大隊ヲ明三十日正午迄田都附近ニ集結シ師團直轄タラシメ且歩兵第五十八聯隊(第一第三大隊々)ヲ其指揮ニ復歸ス、

(ロ) 中央隊ノ部署

中央隊長ハ前記師團命令ニ基キ明三十日依然楊涇クリークノ渡河ヲ準備スルト共ニ一部ヲ以テ東岸殘敵ヲ掃蕩センガ爲メ午後九時ニ十分概ネ左ノ如ク部署ス、
右第一線聯隊ヲシテ楊涇クリークノ渡河ヲ準備セシムルト共ニ有力ナル一部ヲ以テクリーク東岸ノ完全

ナル掃蕩ヲ實施セシム、

2. 歩兵第百四聯隊第三大隊長ヲシテ第三大隊第九
第十中隊欠) 及第四中隊ヲ指揮シ左第一線トナリ

歩兵第六十五聯隊ト交代シ一部ヲ以テ楊涇ヲクリーク
ノ線ヲ確保スルト共ニ主力ヲ以テ「クリーク」東岸ノ殘
敵ヲ掃蕩セシム、

3. 歩兵第六十五聯隊(第一大隊欠)ヲシテ第一線交
代後王家橋ニ集結シ師團ノ豫備ヲラシム、

4. 歩兵第六十五聯隊第一大隊及歩兵第百四聯隊
第二大隊ヲ旅團豫備トシ槽網灣ニ位置セシム、

(ハ) 左翼隊ノ部署

左翼隊長ハ師團命令ニ基キ明三十日現在ノ線ヲ確保シ爾後ノ攻撃ヲ準備センガ爲メ午後十一時概ネ左ノ如ク部署ス

一 歩兵第百十六聯隊(第一大隊ヲ欠キ山砲兵第一大隊及工兵隊ノ配属ヲ解ク)ヲシテ現在地ヲ確保シ爾後ノ攻撃ヲ準備セシム

其一大隊ヲ田都ニ集結シテ師團直轄タラシム

二 歩兵第五十八聯隊第三大隊(第十二中隊第ニ中隊ノ一小隊欠)ヲシテ歩兵第百十六聯隊ノ左翼ニ連

繫シ須宅西方無名部落ヨリ須宅ニ亘ル間ヲ守備シ
爾後ノ攻撃ヲ準備セシム

3. 山砲兵第一大隊ヲシテ現在地ニ在リテ爾後ノ攻撃
ヲ準備セシム

4. 歩兵第五十八聯隊(第一第二大隊欠)ハ現在地ニ
在リテ後命ヲ待タシム

5. 豫備隊(工兵中隊ハ示隊欠)ヲ新タニ加フ)ヲ陸家宅
ニ位置セシム

六. 重藤支隊及永津支隊ト守備交代ニ関スル内示
此夜軍參謀長ヨリ師團參謀長ニ対シ、貴師團ハ目

194

下新陸宅附近敵陣地ヲ攻撃セラレアルモ該陣地ハ師
 團左翼正面ニ於ケル要點ナルト且又一度之ヲ攻殺手ニ
 着手シタル以上日本軍ノ面目ニ懸ケ必ズ之ヲ奪取
 セラレタシ、尚ホ軍全般ノ作戰指導上重藤支隊
 並永津支隊ハ將來他方面ニ轉用セラレ、コト、ナル豫定
 ニシテ貴師團ハ新陸宅奪取後此等部隊ト交代
 シ守備ニ任ゼシメラル、コト、ナル筈ナリ、トノ電話
 アリ。師團ハ去ル十月十二日上海戰線西正面敵陣地
 ノ攻撃ニ着手シテ以來不良ノ天候ト頑強ナル敵
 ノ抵抗ニ對シ連日連夜惡戰苦闘ノ結果楊涇

「クリーク」以東ニ於ケル敵主陣地帯ヲ突破シ今マ
 楊涇「クリーク」ニ膚接シ渡河準備中ニシテ師團
 が該「クリーク」ヲ超越突破シ敵主陣地帯全部ヲ崩
 壊シ克ク嘉定、南翔、側肋ヲ衝キ敵ノ大動脈ニ
 尖刀ヲ加ヘ得ルハ必然ニシテ單ニ時間的問題ニ過ギ
 ズ然ルニ何ゾヤ、戦機將ニ熟シ將兵ノ意氣既ニ嘉定
 南翔ノ彼方ニ奔レルノ時右ノ如キ内示ヲ受ク之レ固
 ヨリ軍全般ノ作戰指導ヨリ出ヅルトコロナリト雖モ第
 一線兵團トシテ豈ニ憤激セザルヲ得ンヤ、
 師團ヲシテ其今日ニ至ラシメタルノ罪ハ軍モ亦之ヲ負

195

擔セザルベカラズ、師團以外ニ誰カ敵主陣地帯ノ突破ヲ
敢行セシモノアリヤ、

七、二十九日夕ニ於ケル師團ノ態勢

二十九日夕ニ於ケル師團ノ態勢附圖第三十四ノ如シ

其ハ攻撃第十九日（十月三十日）曇雨

一、威力偵察ニ関スル師團ノ部署

師團ハ中央隊方面ニ於テハ楊涇「クリーク」渡河ノ必
成ト左翼隊方面ニ於テハ新陸宅ヲ奪取シテ敵主
陣地帯ノ崩壊ヲ完成セシメンガ爲メ本三十日ハ諸隊
ヲシテ現在線ヲ確保シ爾後ノ攻撃ヲ準備セシム。

然ルニ昨夜來ヨリ本朝ニ旦リ從來ト異リ敵ハ全線
 ニ旦リ殆ンド射撃セズ戦線極メテ靜肅ナルト且過
 日來ニ於ケル敵後方情况等ヨリ考察シ師團當面
 ノ敵ハ或ハ退却ヲ開始シ又ハ更ニ敵後方ノ情况ニ何
 等カ変化ヲ生ゼシニアラズヤト判断シ威力ヲ込テ敵情
 ヲ搜索セントシ午前七時命令(別紙第四十六、十三師依
 命甲第五十號)ヲ下達シ各翼隊ヲシテ當面ノ敵ニ
 對シ即時威力搜索ヲ實施セシムルト共ニ嚴ニ敵ト觸
 接ヲ保持シ戰機把握ニ遺憾ナキヲ期セシム
 然レドモ敵ノ第一線ハ依然トシテ從來ト變化ナキヲ知

196

レリ、

二、右翼隊方面ノ戦闘經過

右翼隊方面ハ此日狀況大ナル変化ナク一部ノ歩兵並
 砲兵射撃ニ依リ威力搜索ヲ實施シタル結果ニ依
 レバ當面ノ敵陣地ハ數日來ノ我が砲撃ニ依リ一部破壊
 セラレタルモ我が陣地直前ノ機関銃座ハ尚ホ現存シ
 アリ、而シテ其ノ兵力ハ増加シアラザルガ如キモ、逐次陣地
 ヲ補強シアリテ特ニ吳王宅方面ニハ砲兵ヲ有スル相當
 有力ナル新タル部隊陣地ヲ領シアルヲ知ル、

三、中央隊方面ノ戦闘經過

- (1) 中央隊ハ三十日朝來右第一線タル歩兵第百四
 聯隊第四中隊、第二大隊(第七中隊欠)第三大隊(第
 九、第十中隊欠)欠ヲ以テ陸家橋方面「クリーク」
 東岸ノ殘敵ヲ掃蕩セシメ左第一線タル歩兵第百
 四聯隊第三大隊(第九、第十中隊ヲ欠キ第四中隊ヲ
 屬ス)ヲシテ楊涇「クリーク」ノ確保並殘敵ノ掃蕩
 ニ任ゼシムルト共ニ此等兩部隊ヲ以テ歩兵第六十
 五聯隊ト交代セシム。該交代ハ午前八時ヨリセ
 ヲ開始シ午後二時之ヲ完了ス。
- (2) 右第一線タル歩兵第百四聯隊主「クリーク」

197

東岸殘敵掃蕩ノ爲ノ午後二時砲兵ノ協力ヲ得
テ、クリーク東岸敵陣地ニ突入シ敵陣地ノ第一
線ヲ突破セリ、此ノ際敵ハ我ガ第一線ガ敵前約四
十米ノ至近距離ニ至ル迄全ク沈黙ヲ續ケ突撃發
起ノ距離ニ至ルヤ猛烈ナル掃射ヲ以テ我ニ對スル等其
戰鬥法ハ同聯隊ノ三家村攻撃ニ比シ極メテ巧妙ト
ナレリ、又山砲ノ集中射撃ノ如キ敵ハ殆ンド怖レ
アラズ、射撃間ハ堅固ナル掩蓋内ニ在リ射撃中
止セラル、ヤ直チニ現出シテ我ニ對シ射撃スル狀況
ヲ呈セリ、亦以テ敵戰鬥法ノ変化ニシテ研究上好

資料ト謂フベキナリ。然ルニ敵ハ我が第一線部隊ニ對シ砲火、及バザル「クリーク」反對斜面ノ河岸及後岸陣地ヨリ猛射シ、且盛ニ手榴彈ヲ投擲ス。我が第一線部隊ハ奮戰大ニ努ムルコロアリシモ手榴彈ノ不足等ト相俟ツテ遂ニ完全ニ楊涇「クリーク」東岸ニ進出スルヲ得ズ、敵陣地前方約三十米ヲ隔テ攻撃陣地ヲ構成スルノ止ムヲ得ザルニ至ル。

(3) 左第一線タル歩兵第百四聯隊第三大隊ハ馬家宅對岸附近ヨリ「クリーク」ニ並行シテ近迫依

198

業ヲ進メ附近ノ敵ヲ驅逐ス、

(4) 以上ノ如クナルモ此日中央隊ハ未ダ完全ニ楊涇クリーク東方地區ノ殘敵ヲ掃蕩シ得ズ、之ガ爲メ中央隊長ハ明三十一日一部ヲ以テ楊涇クリークノ線ヲ確保スルト共ニ主力ヲ以テ楊涇クリーク以東、張涇クリーク以北戴家宅、亭家宅ノ線以南ノ地區ニ一兵ノ殘敵ヲモ存在セシメザル、如ク完全ナル掃蕩ヲ實施センコトヲ企圖シ所要ノ部署ヲナス、

四 左翼隊方面ノ戰鬥經過

左翼隊方面ニ於テハ二十九日日没ヨリ午後九時頃

五師團豫備隊ノ集結

ニ至ル間敵迫撃砲並機関銃ノ射撃アリシモ夜半以後三十日朝ニ亘リ極メテ静肅ナリ。左翼隊長ハ午後八時三十分威力偵察ニ関スル師團命令ニ依リ第一線部隊ニ對シ態勢ヲ整ヘ各、當面ノ敵對シ威力偵察ヲ實施セシム然レハモ、左翼隊正面ニ於テハ敵第一線ノ狀況ハ變化ナク何等退却ノ徴ナシ、

新夕ニ師團豫備隊トナリシ歩兵第六十五聯隊（第一大隊欠）ハ馬家宅附近ニ於ケル第一線ヲ午後

199

二時、歩兵第百四聯隊ノ部隊ト交代後王家橋
ニ又歩兵第百十六聯隊第一大隊ハ清水顧西方ニ
於ケル第一線ヲ午前九時同聯隊第二大隊ト交代
シ田都ニ集結ス、

六、守備ノ交代準備命令ノ受領

師團ハ昨二十九日軍參謀長ヨリ重藤支隊並永
津支隊ト其守備ヲ交代セシメラレベキ内示ヲ受ケ
アリシトコロ更ニ此日午後九時頃其ノ交代ヲ準備
スベキ軍命令(別紙第四十七、上軍作命令甲第百五
十六號)ヲ受領ス、

七、敵陣地右側背攻撃ノ爲メ一部兵力ノ派遣

(1) 是レヨリ先ト師團ハ當面ノ敵主陣地帯ノ崩壊ヲニ
速ナラシメントスル戰術的要求ト且ハ之ニ依リ決死敵
火ヲ冒シテ突進シ無念敵彈ニ墮レ未ダ彼我ノ間
ニ或ハフグリノレノ底ニ或ハ敵陣ノ一角ニ横タハレル
勇敢ナル將兵ノ屍ヲ一日モ速ニ我手ニ收容シ以テ
其英靈ヲ慰メントスル熱望ヨリ從來有力ナル一
部ヲ以テ陳家行西南方地區ヨリ敵陣地側面ノ
薄弱部ニ西北方ニ向テ攻撃ノ有利ナルヲ認メ之ガ
遂行ヲ企圖シアリシトコロ三十日正午過ギ隣接

200

第十一師團ノ部隊ハ張宅（小南翔東方約一軒）
 楊家宅ノ線ニ進出シタルノ通報ニ接シタリ、茲ニ於テ
 午後二時三十分命令（別紙第四十八、十三師作命甲
 第五十一號）ヲ下達シ步兵第五十八聯隊長ヲシテ
 部下聯隊（第一大隊欠）步兵第一百十六聯隊第二
 大隊、山砲兵第十九聯隊第一大隊、工兵一小隊、衛
 生隊三分ノ一ヲ併セ、指揮セシメ倉林支隊トナシ即時
 出發、小郁公廟ニ至リ第十一師團右翼隊ト密ニ
 連絡シ當面ノ敵陣地ヲ攻撃シ張涇方面ニ進出
 セシメ且十五榴中隊ヲシテ其ノ戦闘ニ協力セシムル

如く部署ス。次テ午後六時倉林支隊ヲ左翼隊長、指揮
ニ入ラシム(別紙第四十九、十三師作命甲第五十二號
参照)

(2) 該部隊ハ午後三時頃、王家橋附近出發、李家宅――

陸家宅――郭家宅――丁家橋――趙宅――

八房宅――陳宅道ヲ前進シ夕刻西行陳家行南方約

二料ニ到着シ直ニ第十一師團ノ部隊(歩兵第十二聯

隊)ト連絡シ三十一日ノ夕メ攻勢ヲ準備ス。

(3) 然ルニ此夜午後九時頃師團ヨリ倉林支隊ヲ陳家
行西南方地區ニ派遣シタル旨、軍ニ報告セシトコロ、軍

201

ハ既ニ師團ヲシテ近ク重藤支隊並永津支隊ト其ノ
 守備ヲ交替セシメントノ企圖ナルヲ以テ倉林支隊
 ノ派遣ニ同意セス之カ派遣ノ中止ヲ要求シ來ル
 茲ニ於テ師團長ハ軍ノ意圖ニ基キ倉林支隊ノ派
 遣ヲ中止スルニ決シ師團參謀長ハ午後十時電話
 ヲ以テ左翼隊長沼田少將ニ對シ「倉林支隊ヲシ
 テ即時現位置ニ歸還セシムベキ」命令ヲ傳達スル
 ト共ニ當時倉林支隊ト同行シアリシ酒井參謀
 ニ對シテモ之ヲ傳達ス

左翼隊長ハ直チニ電話ヲ以テ倉林大佐ニ對シ歸

還ヲ命ズ、

ハ三十日夕ニ於ケル師團ノ態勢

三十日夕ニ於ケル師團ノ態勢附圖第三十六如シ。

其九、攻撃第三日並守備交代準備(十月三十一日)兩

一、右翼隊方面ノ戦闘經過

右翼隊方面ノ狀況概ネ変化ナシ、

二、中央隊方面ノ戦闘經過

中央隊ハ此日朝來、揚涇「クリク」以東ノ地域ニ於ケル掃蕩ヲ實施ス、而シテ中央隊長ハ當面ノ敵ハ依然頑強ナル抵抗ヲ持續シアルモ揚涇「クリク」以東ノ

掃蕩概ネ之ヲ完了セシヲ以テ中央隊ハ現在線ヲ確保スルト共ニ成ル可ク兵力ヲ集結シ爾後ノ企圖ヲ準備センガ爲メ田代大佐ヲシテ自今部下聯隊(第三大隊ヲ々々)ヲ以テ第一線トナリ陸家橋北方約百五十米附近ヨリ以南張涇クリークニ亘ル揚涇クリーク東岸ノ線ヲ確保セシメ左第一線部隊タリシ步兵第一百四聯隊第三大隊ハ之ヲ槽網灣ニ集結シ旅團豫備隊タラシムル如ク部署ス

三、左翼隊方面ノ戦闘經過

(1) 孟家宅、清水顧方面

三十一日、孟家宅、清水顧方面ニ於テハ狀況大ナル変化
ナシ

(四) 陳宅方面

(1) 倉林支隊ハ三十日夜攻撃ヲ中止シ現位置ニ歸還
スベキ命令ヲ受領シタルモ、三十一日朝、倉林大佐ハ
當時、支隊前面ニ在リテハ敵ハ孟家宅、陳宅並其ノ
西南方無名部落ニ亘リ陣地構築中ニシテ其ノ陣
地亦輕易ナリシヲ以テ獨斷、當面ノ敵陣地ヲ突破
センコトヲ決意ス、即チ倉林大佐ハ攻撃ノ重點
ヲ陳宅ニ指向シ、朱家宅、高楊樹、張家塘ノ線

203

- ニ進出シ師團主力、敵陣地突破ヲ容易ナラシメ
 ント企圖シ午前八時既ニ昨夜來、頭家宅西方地
 區占領シテ、攻撃準備中ナリシ第二大隊ノ南方盛
 家宅更ニ第三大隊ヲ展開シ攻撃準備ヲナサシム。
- (2) 師團長ハ午前九時稍。前倉林支隊當面ノ敵
 情ト且、倉林大佐ノ獨斷攻撃ノ決心處置ヲ知リ
 遂ニ該支隊ヲシテ當面ノ敵ニ對シ攻撃ヲ實施セ
 シムルニ決シ、且山砲兵第十九聯隊長ノ指揮スル第
 三大隊及十五榴中隊ヲ増加ス。
- (3) 斯クテ倉林支隊ハ午後二時攻撃開始ノ豫定

ナリシモ砲兵ノ到着遲延シ爲ニ午後五時頃砲
撃ヲ開始シ第一線ハ概ネ午後六時攻撃ヲ前進ニ移
リ陳宅前方敵陣地ヲ奪取シタルモ爾後該部落
前面ニアル「クリーク」ニ近迫シテ夜ヲ徹スルニ至ル。

(4) 是レヨリ先キ左翼隊長ハ陸家宅旅團司令部ニ在
リシモ陳宅方面ノ戦闘指導ノ爲ノ午後三時陸家
宅出發午後四時三十分八房宅ニ到着シ直接
該方面ノ指導ニ當レリ。

四、重藤支隊及永津支隊ト守備交代ニ関スル打合

師團ハ既ニ昨三十日軍ヨリ重藤支隊及永津支隊

204

トノ守備交代準備ニ関シ命令ヲ受領シアリシガ此
 夜遅ク守備交代ニ関スル命令（別紙第五十、作命
 軍第百五十八號）ヲ受領ス其要旨左ノ如シ。

守備交代ニ関スル軍命令ノ要旨

ノ第十三師團ハ十一月一日ヨリ十一月四日拂曉迄ニ重藤支
 隊並周家宅、萬年橋、南梅宅ノ線ヲ占領シアル第
 十一師團ノ部隊（永津部隊）ト其ノ占領地域ヲ交
 代シ第十三師團現占領地域以北ノ線ヲ確保スベシ。
 又、現ニ第十三師團長ノ指揮下ニアル野戰重砲兵第
 十聯隊第二大隊ノ一中隊及同聯隊段列ノ半部

ヲ第九師團ニ轉屬スベシ、

3、騎兵第十七大隊（一小隊欠）ヲ其指揮下ニ復歸シメ
新ニ鳩一分隊、第六師團後備步兵第三、第四大
隊ヲ配屬ス、

師團ハ右指示ニ基キ守備交代準備ノ爲メ青津參謀
ヲ重藤支隊並永津支隊ニ派遣シ所要ノ打令セラル爲
サシム、

當時ニ於ケル前記兩支隊ノ配備ハ附圖第三十七、第三
十八ノ如ク而シテ此等支隊前面並師團正面ノ敵ノ兵
カハ少クモ十師ナリ、

五敵陣地右側北背ニ對スル攻撃手並守備交代準備ニ関
スル部署

師團ハ十一月一日依然一部ヲシテ敵陣地ノ右側背ヲ
攻撃スルト共ニ主力ヲ後方ニ集結シ重藤支隊並
永津支隊ト交代シ新任務ニ就クノ準備ヲナサン
ガ爲メ午後四時命令別紙第五十三師作命甲第
五十三號ヲ下達、概ネ左ノ如ク部署ス、

沼田支隊ヲシテ依然當面ノ敵ヲ攻撃シ速ニ張涇
クリークノ線ニ進出セシム、

獨立野戰重砲兵第四大隊ヲシテ右戰鬪ニ協力セシム。

2. 歩兵第百四聯隊、山砲兵第三大隊（一中隊欠）工兵一小隊ハ酸浦地區守備隊トナリ新木橋以南陳家行ニ亘ル線ヲ守備セシム、

特ニ重點ヲ右翼ニ保持セシメ、又地區内ニ於ケル他部隊トノ交代ハ十一月一日午後四時迄ニ完了セシム。

3. 爾餘ノ諸隊ハ十一月一日午後六時迄ニ（沼田支隊配屬及協力部隊ヲ除ク）劉家行ヲ中心トスル地區ニ集結シ交代ヲ準備セシム。

六、三十一日夕ニ於ケル師團ノ態勢

三十一日夕ニ於ケル師團ノ態勢附圖第三十九ノ如シ。

セ、彼我全般ノ状況

此日軍主力方面ニ於テハ第三師團ハ正午ニ蘇州渡河
ヲ決行シ歩兵第三十四聯隊ノ二大隊ハ金家頭方面
ヨリ渡河ニ成功シ第九師團ハ明十一月一日渡河ヲ企
圖ニアリテ又第十一師團方面ニ於テハ中央隊ハ午
後三時馬路湾ニ対シ攻撃ヲ開始セリ
軍ヨリノ通報ニ依レバ敵ノ第三師、第三十六師ハ蘇州
河南岸ニ、第十八師、第五十三師、第八十七師、第百
七十師ハ何レモ南翔方向ニ退却シツ、アルモノ、如シ

其十、攻撃第三日並守備交代準備（青一日）畢、

一、重藤支隊及永津支隊トノ守備交代準備、

十一月一日師團ハ重藤支隊及永津部隊ト其守備ヲ交代スル爲メ其ノ準備ニ着手ス其ノ状況左ノ如シ。

(1) 從來師團ノ攻撃手正面タリシ新木橋以南陳家行ニ

亘ル間ヲ守備シ酸浦地區守備隊トナルベキ歩兵第

百四聯隊長ノ指揮スル部下聯隊、山砲兵第十九聯

隊第二大隊（一中隊欠）工兵一小隊ハ正午頃迄ニ殆ンド

其ノ守備ヲ交代シ午後四時迄ニ其配備ヲ完了ス。

此日歩兵第百四聯隊右第一線ニ在リシ第一大隊

ハ陸家橋西方揚子江クリーク東岸ノ敵陣地ヲ突破
 シ「グリーク」ヲ強行渡河セントセシガ馬家宅方面
 ヨリノ側射甚シク其ノ機會ヲ得ズシテ遂ニ守備就
 クニ至レリ

(2) 騎兵第ナセ大隊ハ上海附近上陸後集成騎兵隊
 トシテ師團主カト分離シ行動シアリシカ此日正午
 頃師團長ノ指揮下ニ復歸ス

該部隊ハ將來歩兵第ニナ六旅團長ノ指揮スル右
 地已内界涇地已守備隊ヲラシムベキモノナルヲ以テ直チ
 ニ羅店鎮北方地區ニ到リ重藤支隊ノ一部ト交代スベ

キヲ命ズ。而シテ該部隊ハ此日所命ノ如ク交代ニ
着手セリ。

(3) 其他ノ部隊(沼田支隊ヲ除ク)ハ何レモ夕刻迄劇
家行ヲ中心トスル地區ニ集結シ交代準備中ナリ。

ニ重藤支隊並永津支隊ト守備交代ニ関スル部署。

師團ハ軍命令ニ基キ本一日ヨリ四日拂曉ニ旦リ逐次重

藤支隊及永津支隊ノ守備地區ヲ交代シ軍主力ノ

右側背ヲ安全ナラシメニカ爲午後七時命令(別紙第

五十三)師作命令甲第五十五號)ヲ下達シ之カ部署

ヲ爲ス。而シテ防禦ノ重點ハ從來ニ於ケル敵ノ攻勢

ト將來師團ノ攻勢前進ヲ顧慮シ之ヲ陣地右翼タル劉河鎮方面並中央タル羅店鎮嘉定道方面ニ置ケリ。

三、陳宅附近ノ攻撃手並之カ中止

(1) 陳宅附近敵陣地攻撃手戦闘經過

(1) 昨三十一日以來陳宅附近敵陣地ヲ攻撃中ナリ

シ沼田支隊ハ此日主力ヲ以テ孟家宅ニ向ヒ攻撃セ

ントシ沼田少將ハ深更午前零時概ネ左ノ如

ク部署ス、

歩兵第五十八聯隊長ヲシテ部下聯隊(第一

大隊欠)歩兵第百十六聯隊第二大隊(第八
中隊欠)山砲兵第三大隊工兵一中隊ヲ指揮シ
砲兵隊ノ砲撃ヲ効果ヲ利用シ主力ヲ以テ孟
宅ノ敵ヲ攻撃セシム、

2、山砲兵第十九聯隊長ヲシテ山砲兵第一大隊
十五榴中隊ヲ指揮シ砲兵隊トナリ歩兵第
五十八聯隊ノ攻撃ニ協力セシム、

独立野戦重砲兵第四大隊ト密ニ協調セシム、

3、歩兵第百十六聯隊第八中隊ヲ旅團豫備

トス、

(2) 歩兵第五十八聯隊長石基、午前二時第三

大隊ヲ以テ陳宅方向ヨリ孟衆宅ニ対スル攻撃ヲ

準備セシメ第二大隊ヲシテ陳宅西方ヲクリーク

ノ線ヲ占領シ左前方ヨリスル敵側防火器ヲ制

壓シ第三大隊ノ攻撃ヲ容易ナラシメ又歩兵第

百十六聯隊第二大隊ヲシテ其一部ヲ以テ中心王

家寺ヲ占領シ第三大隊ノ攻撃ヲ容易ナラシム

ル如ク部署ス

(3) 此日砲兵ハ午前八時三十分ヨリ射撃ヲ開始シ孟

家宅、陳宅、南方三百米ノ無名部落並同部落

(10) 攻撃中止

ヲ南北ニ兩断スル「クリーク」ニ沿フ掩蓋機関銃座
ニ對シ猛射ヲ加フ。斯クテ我カ第一線ハ午後一時過
キ陳宅南方三百米「クリーク」南岸ノ無名部落
ヲ午後二時三十分頃前記「クリーク」北岸ノ無名
部落ヲ占領シ夕刻其第一線ハ陳宅前方約五
十米ニ近迫シタルモ敵火猛烈ニシテ陣地前「クリ
ーク」渡河ニ努メツ、夜ニ入り遂ニ沼田支隊ハ未ダ
陳宅附近敵陣地ヲ奮取スルニ至ラズ（附圖第三十
六参照）

210.

(1) 陳宅附近ノ敵陣地ハ我部隊ノ攻撃當初ニ於テハ敵ハ急遽陣地構築中ナリシ如キモ爾後ニ於テ偵察ノ結果ニ依レバ該方面ノ敵ハ第五十三師ニ屬シ、當面ノ兵力少クモニ三大隊ニシテ其陣地ハ重輕火器ヲ主体トシ且巧ミニ「クリーク」ヲ利用シテ三線ニ工事ヲ施シ而モ偽裝巧妙ニシテ陣地ハ一般ニ相當堅固ナルモノト認めラル、陳宅附近敵陣地ノ狀況前述ノ如キヲ以テ之ニ對スル沼田支隊ノ迅速ナル攻撃手ト之ニ基ク敵陣地左側背ニ對スル脅威ハ今遽ニ之ヲ望ミ難ク又、

第十一師團ト協同シテ之カ攻撃ノ目的ヲ達成セン
トスルモ元來該師團ノ目的ハ南翔攻撃ニアルヲ以
テ兩者ノ攻撃實施ヲシテ密接ニ連繫セシムルハ困
難ナリ。

(2) 茲ニ於テ師團ハ未ダ陳宅攻撃ノ目的ヲ達成セズ
思出深キ激戦地ニ我カ勇士ノ屍ヲ残シ本攻撃ヲ
中止スルハ眞意ニ非スト雖モ既ニ守備ニ関スル新
任務ヲ受ケタルヲ以テ我カ勇士ノ屍ハ他日之ヲ收容
スルコトハシ攻撃ヲ中止スルニ決セリ、

(3) 即チ此夜午後十時稍前電話ヲ以テ沼田支隊ニ

211

対シ陳宅攻撃ヲ中止シ守備ニ関スル新任務ニ就
クヘキヲ命ス、

支隊長亦之ニ基キ攻撃ヲ中止シ諸隊ニ対シ守
備交代ニ着手スベキ部署ヲ爲シ、歩兵第五十
八聯隊長ハ第三大隊ヲシテ概ネ現在ノ第一線
（陳宅南方約三百米ヨリ無名部落ヲ経テ盛朱
家西方無名部落ニ亘ル間）ヲ守備シ、第十一
師團ノ部隊ト交代後新守備地區ニ到着セシメ
主力ヲ以テ先ヅ張家角ニ集結シ新任務ニ就ク
ベク部署ス。

四友軍ノ状況

此日軍主力方面ニ於テハ蘇洲河ノ渡河逐次有利ニ
進展中ニシテ第九師團ハ午後一時十分姚家
宅及張家宅、各東北側地區ヨリ蘇洲河ヲ渡河シ
逐次地歩ヲ獲得シ此日夕姚家宅西南側ヨリ張
宅南側、蔡家宅東北側ノ線ニ進出シ又第三師
團ハ右翼方面ニ於テハ午後四時十分攻撃ヲ再
興シ午後十一時迄ニ歩兵三大隊ヲ渡河セシメ爾後
渡河ヲ續行中ナリ、